THE Olympic Golf Club

JANUARY 2005 Vol.11

座談会 高橋勝成プロと語る

出席者　大川　清・高橋 勝成

聞き手　五嶋 雅徳・川島 好彦
槙野 隆章（競技委員長にオブサーバーとして出席いただいた）

2004年度日本シニアオープンで3度目の優勝、第2回M Kチャリティシニアオープンでも優勝し、日本のシニアツアーのトッププロとして活躍されている高橋勝成プロを迎え、プロから見たシニアトーナメント、理想のゴルフ場、オリムピックGCについて「熱き想い」を語っていただきました。

五嶋　先ず、先日の日本シニアオープンでは優勝おめでとうございました、更に先般のMKチャリティシニアオープンでは開催に当たってホストプロとしてご苦労されたわけでありますが、これも優勝されて合わせておめでとうございました。それでは最初に、高橋さん今迄の優勝は何回あるのですか・・今までのご実績をお聞かせください。

高橋　日本シニアオープンは3度目の優勝で、レギュラーツアーで15勝、シニアツアーはまだ数えていませんが4年連続賞金王でした。今年は2位です。

五嶋　我々は何年もゴルフをやっているのですが、高橋プロと申しますと、私の中にあるのは日本マッチプレーでの優勝ですが・・・。

高橋　私の一番の思い出として記憶にあるのは広島オープンですね、25歳でプロになって1年間は出れないので、アジアサーキットに出て翌年の韓国オープンに優勝して、それから8年目に広島オープンで初優勝・・・これが一番の思い出になっております。

五嶋　日大を卒業されてからすぐプロになられたのですね。

高橋　いいえ、大学を卒業してすぐには父親の許しが出ず実家（札幌ですが）の事業を手伝っておりましたが、1年経っても許しが出ませんでした。

五嶋　厳格なお父様ですね。

高橋プロと大川会長

高橋　私の父親は、大川会長と性格がよく似ております、見るたび大川会長に父親のような気持ちを持っております。（笑）
最初、大反対を食らいまして・・・家出というかたちでプロになる事を決意しました・・・。

五嶋　ゴルフの名指導者であり、このゴルフ場の経営者として素晴らしいご実績を残されている大川会長、何よりも素晴らしいのは人物として非常に立派な人として敬服しております。大川会長がプロの話になるといつも高橋プロの話

になりいつもいい事しか言わない・・・何かエピソードというか、おもしろい話あれば、お二人で話して下さい。お二人の出会いはいつ頃ですか？

高橋　私が大学の１～２年の頃ですが、周りも何も知りませんからただ大川会長に挨拶をしていたという事です。

五嶋　大川さんにとって、その頃はいつ頃、何歳のときですか。

大川　日本アマをとった時で43歳ですから、自分の子供のような気がしていました、というのはお父様をよく知っていましたから、今年も出ているね、頑張ってよ・・・いろんな面で関心がありました、せいぜいそれくらいで・・・あとは、プロになってからです。

五嶋　学生時代の高橋さんのプレー振りは如何でしたか。

大川　そうですね、関心があるものだから練習場での練習やプレー振りやらをよく見ておりました、彼の特徴は、今の彼の態度・・・真面目で、誠実で、一生懸命なところがありました、そういうところに私の彼に対する信頼を厚くさせました、又挨拶・作法がきっちり出来る人です。ゴルフは、私が見た場合、基本に忠実なプレィヤーで非常にオーソドックスな素晴らしいゴルフです。

五嶋　おっしゃるとおりマナーの良さ、人柄の良さが素晴らしいですが、プレーのマナーといいますか、実は今日もプロとご一緒したのですが、あっちこっちでコースの作業をしている人のそばに行って"有難うございました"と丁寧な挨拶をしている。ここのゴルフ場で一番いいのは会長が朝会うと“おはようございます”といって握手をしてくる、これが他の人が出来てないのに高橋さんはきっちりやっておられる。

五嶋　高橋さん、どういうお気持ちで。

高橋　自分がプロになる時、自分の同級生がいなければプロになれていなかったし、ここまでやってこられたのは、必ずバックに色々な方々のご協力があったからでこの協力がなければプロになっていませんし、今迄の私の成果はなかったでしょう。自分の練習が出来るゴルフ場があって、整備してくれる人がいるから色んな練習も出来る、家族も含め後押ししてくれる人がいるから自分がある、いつもそういう方々に感謝の念を持って接しております。先週のＭＫにしてもホストプロに徹するべきでしょうが、周りの"熱い"声援を受けて一生懸命やった結果、優勝ということになりご声援に感謝しております。

五嶋　いいお話ですね、お人柄ですね、ホストプロでも勝って当たり前だという人が多い中でそういう気遣いされる・・・さすが高橋さんですね。優勝賞金はボランティアに出されたのですね。

高橋　ええ、後にあまり残らない、ホストである以上全部もらうのはおかしい・・・生活もあるのでほんとうは２位のほうが全部貰えるのですが・・・(笑)。

五嶋　大川さんは、日本アマ、韓国アマをとられ、世界シニアもとられ更に日本ミッドシニア、関西グランドシニアと数々の素晴らしいご実績を残された。私ら、大川さんの現役の一番強い時は知らない、ここのメンバーさんではここにおられる槙野隆章さんとあと安藤孝雄さんぐらいでごく僅かです、大川さんの全盛時代のゴルフがどういうゴルフであったのか、プロから見られて・・・。

高橋　自分が一生懸命やっていただけで周りが見えない状態で、どういうものか分からなかったですが・・・・ただ、日本アマを勝ってそれで落ち着くのでなく世界シニアに勝って、そしてこのゴルフ場を造っていらっしゃる、非常に完璧主義だと思います、それで細かい事にも凄く神経が行き届いて、その意気込みというか、

思うのです。それから舞台が一番素晴らしくないといくらいい試合をやってもお客様は見てくれない、舞台というのはギャラリーが来て見やすい舞台、選手にとってハードな舞台ですね、これを兼ね合わせた舞台というとこのオリムピックが非常にいい舞台だと思います。そして従業員の皆さんが、ほんとに全力投球していただけるんですね、自分が全国のゴルフ場を見てきましたがなかなかこういうところは数少ない、そういう事が大切だと思います。

その信念の持ち方が半端なものじゃないという事が分かるのです、ですからその精神状態というのか、物の考え方が僕らにとって凄いエネルギーとなるのでその考え方をどんどん自分達に吸収したいと思うのです。ゴルフに、勝てる、勝てないは技もさることながら、その精神的なもの、物の考え方で勝てると思っていますから・・・自分がどうやってこれを盗むのか、これが凄いエネルギーになると思います。僕達は、どういう仕事をしている時にどういう信念でやっておられるのか、これを学ぶべきだと思うんです。

五嶋　まさに、おっしゃるとおりですね、ゴルフでもご一緒して本当に教えられることが多い、大川さん益々お元気で更に僕らに教えてください。

シニアトーナメントのあり方

五嶋　シニアの話がでましたが、ついでで申し訳ないのですがMKシニア2回目が終了し、今後更に盛り上がりのあるトーナメントになってこれから3回、4回に向けて、ホストプロとして一生懸命やられた高橋さんからみて、シニアトーナメントがどうあるべきか、オリムピックGCとしてどういう事をお手伝いしたらよいのか、お話していただければ・・・。

高橋　シニアの世界は衰退している、参加プロさえ良ければ発展するというものでもないと思うのですね、いいプロが来たら一時はいいスポンサーがつくかもしれませんが、内容しだいでは又衰退すると思います。その試合の内容・ポリシーをどこに持っていくか、今一番大切な事はやはりチャリティというか、慈善事業というか、収益金の一部を福祉団体等へ社会還元することによって地域の皆さんが盛り上げてくださると

川島　チャリティトーナメントといえば、アメリカのポートランド(オレゴン)で十数年前ゴルフ場に関係した事がありました。ピーター・ジェイコブソンですが、今年全米シニアで優勝しましたね、彼が17年も前からフレンドマイヤーチャレンジという手作りのトーナメントをやっている、彼はものすごく人柄がよく、J.ニクラウスやA.パーマー、G.プレーヤーが集まってくる。
昨年度の賞金は1億円で最初は2千5百万円でしたが17年で大きく伸びてる・・・高橋プロがホストとなってのチャリティシニアトーナメントも非常にユニークで面白いトーナメントに育てていただきたいと思います。

五嶋　我々メンバーもボランティアに出てもっと一緒になって大会を盛り上げるようにしたいと思いますので是非よろしくお願いします。
先ほどインターネットのホームページで高橋プロを賞賛するメッセージが多いと申し上げましたが・・・。

川島　高橋プロに関する情報を色々調べようと思い、インターネットのPGAのホームページを開いたらMKシニアに優勝したという事がトップ記事になっていて、更に色々見ていくと『高橋勝成プロ応援ページ』というのがありました、多分ファンの誰かが立ち上げたのだと思いますが、12月5日18時47分(優勝決定の直後)に『第2回MKチャリティシニアオープン優勝おめでとうございます』というメッセージが入っておりました。

また、日本シニアオープンでの優勝の直後40数件と大変多いメールが入っている・・・ツアーで優勝された後すごく応援メッセージがあってびっくりしました、これをお渡ししたいと思って・・・。

五嶋　高橋プロの人柄に惚れたファンの方がメールを出されたんですね。

川島　このメールは、高橋プロが作られたページでなく、ファンの仲間の応援メッセージとして行なわれているのが面白いというか、びっくりしたので持ってきたわけです。

五嶋　この中にも、実際あるのですが高橋さんは今年息子さんを亡くされ、その直後の日本シニアオープンに勝たれ、その時のTV放映の場面で“その事には触れないで下さい”と帽子で顔を隠しながらおっしゃっておりまして、見ている人みんなが泣いたと思うんですね、男として涙を見せないでおこう・・・強さというか、厳しさというか、僕はほんとうに惚れ惚れしたんです、息子さんの供養のためにも頑張るとおっしゃっておりましたが是非頑張ってほしいと思います。

理想のゴルフ場

五嶋　先ほど、シニアトーナメントにしても、レギュラートーナメントの大会にしても舞台が揃っていなければあまり盛り上がらないというお話がありました、そういう意味で理想のゴルフ場というか、プロの大会でなくメンバーコースとして理想のゴルフ場はどういうものなのでしょうか・・・。

高橋　全国のゴルフ場、各オーナーの意見と現実は相当バラツキがあると思いますね、ソフトの面で大川会長は満足されていないし、私もそう思います。あるゴルフ場を紹介しますと・・・私のゴルフの原点になったんですが、昔の霞台カントリークラブ（茨城県稲敷郡）、そこのシステムというのが今でも脳裏に焼きついておりまして・・・和気あいあい、従業員がみんな明るい、メンバーも明るい、働いている人もここに勤めて良かった、メンバーもここのメンバーで良かった、ここに来ていつも勉強出来る、みんな良かった、良かった、私はこれが当たり前だと思っておったのですが・・・全国へ行ったらイメージが違うのですね・・・ゴルフ場の明るいイメージ、ここに来たらゴルフが楽しい、練習も出来る、教えてくれる、マナーも周りに言われなくとも自然にそうせざるを得ない・・・ここに友達やお客様を連れてきたい、ご飯も食べたらおいしい、ここのメンバーになって誇らしい、来て楽しい、また来たい、そんな欲張りなものが全部入っている。しかしなにもそんなに難しいものでもない、メンバーがゴルフ場を大切に扱っている、芝でも、花壇でも何でもごくごく自然に大切にし、改めて造るのでなく種蒔いて自然に育てる、形にはまったものでなく・・・いろんな自由が・・・うまく言葉が出てこないのですが、このようなイメージですね。

五嶋　そう言う意味で、理事長は率先して、ご自分で草を取り、木を植え、5、15、16、17、18番ホールとアウト練習グリーン周辺での柿が実った、といって知らせてくれる。今、高橋さんが言われたみんなが来て楽しい、また来たい、こういうゴルフ場が一番いいのだというお話しですが、会長いかがですか。

大川　まったくそのとおりだと思います、それが出来るのは、やはり経営に携わる人達の立場、考え方それが浸透しなければいけない。時勢のせいにする訳ではないですがバブルがはじけた後であっても、大震災さえなければうちのコースも今よりはもっといいコースになっていた、倶楽部ライフや全てにおいてもっと私が頑張れ

たと思うのです。私は常に社員に『コースがなんぼ良くてもその倶楽部に入ったとたんに雰囲気が悪ければダメである、社員の挨拶の仕方、態度そういうものがまずければそのコースは評価を受けない』と言っております、私の仕事は、そういう教育とコースを良くする事に専念する『また来たい、また来て再挑戦したい』こういうコースを造る事です。社員にいつも、あとの整備とソフト、サービスの方を頼むと言ってきております、コースの方は今尚手を加えたい所が多々あります、これから機会ある度に改良して行くつもりです。

川島　どういうゴルフ場がいいかという話になりますと、朝来たら“おはようございます”帰りは"また来ます"という挨拶から入る、いわゆるフェローシップというか交流というか、メンバー同士でそういうものを今より高める必要があるという気がしております、そういう意味で先ほどの話、プロ・技術というサイドの話とは別に倶楽部ハウスの中での交流という雰囲気にすんなり入れる、これが“また来たいね”に繋がる、そういうものを我々フェローシップ委員会の役割としてやれれば・・・と思っています。

高橋　如何に、プロゴルファーがお客様とゴルフ場側との接点を持って楽しく遊んでいただくか、色んな信頼関係を築いて・・・如何にしたらゴルフ場側の運営がうまくいくか、色んな意味でメンバーとの交流を図る、一部の人だけの交流でなく回転数をあげこれが全部のメンバーに回っていくような・・・みんなの協力でゴルフ場が繁栄して行く、こういう事も考えております。

オリムピックを更に良くする為に

五嶋　高橋プロから我々のゴルフ場に出てきて、色んなかたちで応援したいとおっしゃっていただいており誠にありがたいと思っております、ひとつよろしくお願い致します。

高橋　関西に来て16年いろんなゴルフ場でお世話になり自分の目で見てきました、昨年のMKの試合から大川会長と1年間色々お話をし、そこで僕が決断したのは、大川会長は『大変、素晴らしい方』だとあらためて感じました、お世辞でなくて自分の父親の教えとなんら変わらない、昔はいやでしょうがなかったのですが、その教えがこの年になってやっと分かってきたのです。所属とまではいかないですが、それ以外は会長が許していただけるならば、オリムピックGCをベースにしてここで練習をして、ここで色んな事を学びたいと思っております、その中で自分の推薦するプロをおいて自分が居ない時でも自分の意志がそのまま通じるように・・・メンバーと大川会長、社長、支配人また従業員の間を取り持つ、ここのメンバーになって良かったという事を手探りで見つけながらやって行きたい。更には、若い人の教育現場として研修生を育て本当のプロを、日本を背負ってたつプロ、世界に出るプロを育て宮里藍ちゃんじゃないけれど

すがすがしいプロを出して、トーナメントを活性化して行きたい。大川会長から"教育現場としてどんどんやれ"こういうお言葉をいただいておりますので、ここから将来いい子が出れば・・・。

五嶋　素晴らしい話しですね、これを読まれたメンバーの方はおそらく大喜びであろうと思います、高橋プロの今のお話し、高橋プロの夢・ビジョンと会長の夢とはおそらく合致すると思うのですが、会長いかがですか。

大川　二人で、今の話は何回もしております、例えば青少年の育成、ジュニアだけでなく色んな意味で、彼がやろうとしている事はやってみなさい、私に出来る事は協力する・・・という事になっております。

五嶋　そうですか、よろしくお願いします。

うまくなる秘訣とコースの攻め方

五嶋　高橋さんに来ていただいた以上、どうしたらゴルフがうまくなるだろうという事とここのゴルフ場の攻め方、その心得みたいなもの、この２つをお話してもらえればありがたいのですが。これは考え方になると思うんですが、会長はいつも僕らに "ムリ、ムラ、ムダの3ムを無くする事" と言ってくれるのですが、この度高橋さんは優勝しましたがここの8番、私はいつも左に引っ掛けてＯＢしたり、右に押し出したり、セカンドも左側への傾斜、急な打ち上げで難しい・・・いつも大川会長を恨んでいるのですがハンディ18の人が攻めるとしたらどうしたらいいんですか？

高橋　いやー、私らでもあそこは難しいですね・・・攻め方はないですね、お辞儀をしてすみません真っすぐ行って下さいと・・・打つまでは基本どおり、練習どおりの事を一生懸命やります、あとはムリ、ムラ、ムダのないようにただ上げておろす、失敗したら何かを教えてくれる訳ですからその教えを受け止めるしかないでしょう。

五嶋　その上げておろすというのがなかなか難しくて、おそらくたいがいのアマチュアが悩んでいる、その上げておろすコツみたいなものは、一言でいえば・・・。

高橋　ターゲットに対して、ただ素直に、平行に、真っすぐに立つ事です、アドレスを研究すればよい。

五嶋　中部銀次郎さんの本で『ゴルフはアドレスにつきる』というのを読んだ事があるのですが、そういうものなんですか。

高橋　そういうものだと思います、遊んでやっているときはまだ思考能力がしっかりしてますから、どこにあげてどこにおろすというのが分かるのですが、本当に真剣になった時、思考能力がなくなるので、無意識にあげられるそういう訓練が必要なんです、個性の強い人はそれはそれで突き抜ければいいのです、中途半端な個性ではだめでそれをやり遂げればいいんです、そこまで行くには何十年いや40年50年必要なんです、真っすぐ立って、真っすぐ構えて、普通にあげて気持ちよく振れる・・・非常に難しいことなのですが。

ポリシー・哲学

五嶋　先程、ポリシーや哲学についてお話をお伺いしましたが、プロゴルファーとしてのポリシーもあるでしょうし、人間として、父親として・・・色んな意味で哲学をお持ちだと思いますが、そういった考え方を最後にもう一度ご披露していただければありがたいのですが・・・。

高橋　父親は最初猛反対であったんです、プロゴルファーについては、父親は良く言っておりましたのは"プロゴルファーは、なんぼ優勝しようと、なんぼ金を儲けようと、プロは所詮プロであって暖簾を継げないものがある、いっちょうまえでない、早くやめろ"というのが父親の持論でした、ほんとにプロとして許してもらったのは、高松宮様と一緒にゴルフを出来ることがありまして、『菊のご紋』のたばこをいただいてそれを父親に持っていって、それで初めてプロゴルファーを許すといわれました。プロゴルファーの地位がそこまでいったか、国の象徴である方に認められたのか、その方の目の前でその方が許すようなゴルフをしなさい、それであれば許そう・・・それがひとつの僕の自慢になるものでプロとしての基本的な考え方になっております。あともうひとつは、人間として・・・子供が先に逝きましたけど、うちの家内も僕も、自分達が死んだ後に、子供が、これが僕のお父さんですと正々堂々と・・・誇らしく・・・言えるような生きかたをしたい。

五嶋　今日は長時間ありがとうございました、高橋さんがオリムピックGCの応援をしてくださるというのは非常にありがたい事です、なりよりも今年も優勝の数を増やして下さい。今日みたいな気持ちのいい座談会を持てて本当にうれしかった。これはなりよりも高橋さんの人柄、会長の人柄のお蔭でございまして、あらためて感謝申し上げます。ありがとうございました。

シニアゴルファー

大川　清

日本最古のゴルフ倶楽部であります神戸ゴルフ倶楽部におきまして開場100周年記念祝賀会が一昨年盛大に行われました。戦前40年、戦後60年の日本のゴルフ史のなかで第一次ゴルフブームが昭和30年代におこりましたが、その頃はまだゴルフ場が少なくエリートの男性だけのスポーツでありました。朝鮮戦争、ベトナム戦争以降日本の経済が隆盛するとともにゴルフ場も竹の子が生える勢いで増えるとともにゴルファーも増えてまいり、その当時始められたゴルファーも今ではシニアの年代になりました。ゴルフは欧米からの輸入ということで新しいスポーツとの感が強いですが、100年という長い年月がすでにたっており、今や一般大衆化が進み国民のスポーツとして発展してまいりました。

昨年、「世界ゴルフ殿堂入り」を果たした青木 功プロが今年は日本での試合数を増やし、シニアツアーにも参戦したいと表明したということで、レギュラーツアーで活躍していた選手がこれからシニアツアーに積極的に参戦するという風潮がやっと出はじめたことはゴルフ界にとって明るいニュースであります。青木 功、尾崎将司、中島常幸、杉原輝雄、高橋勝成と言った日本のレギュラーツアーをリードしていた選手の対決がシニアツアーで展開することを想像すると、世界の舞台で精魂込めて磨き上げた技と経験、成熟された名人芸を披露し、その技を見せてもらえることはアマチュアゴルファーにとって大変勉強になることと思います。

シニアの年代になると、さまざまな場面で後継者を育てる責任のある立場となります。家庭、職場ではもちろんのこと、ゴルフにおきましてはジュニア、ビギナーの指導も然りだと最近になり痛感しております。そして、日本のゴルフの成長とともに歩んできたシニアゴルファーは、これからの日本のゴルフ界をますます発展させるためにも、また青少年の礼儀・作法、情操教育、人間形成の場としてゴルフが役立つよう力を合わせて努力して頂くことを心より願う次第であります。

一昨年に引き続き「第2回ＭＫチャリティシニアオープン」が昨年当倶楽部で開催されましたが、ゴルフ界発展のために微力ながら貢献できればと願い開催コースとして協力させて頂きました。この大会にも多くのボランティアの方が大会運営にご協力頂きましたことは本当にありがたいことであります。ジュニアがゴルフに入門しやすくするために開発された「スナッグ・ゴルフ」が大会期間中に開催され、多くのボランティアの方のご協力を頂き2日間で２００名以上の子供たち、ご家族が楽しまれました。目を輝かせながらプレーに夢中になった子供たち、ご家族の方の微笑みは、まわりの人たちを本当に幸せにしてくれます。

私自身も、ゴルフを通じて大自然の中でご家族、ご友人、そしてお仕事におきましてもゴルフ場をもっとご活用頂ける環境をご提供し、ゴルファーが心身ともに豊かになり、平和で、そしてスマートなゴルフ・ライフを楽しんで頂けますようお手伝いしていきたく思っております。